

幼児期子育ての 教科書

子育てが楽しくなる考え方、子どもが伸びるしつけの仕方、
問題行動改善法、手遊びや絵本の効果的な取り入れ方、
一生付き合える最高のママ友作り方…などを解説！



0歳から6歳までの子どもがいるママ向け

幼稚園教諭時代の7年間で約2000組の親子を
サポートしてわかった子育てのヒントを公開

幼児期の子育てアドバイザー
かがりいさ

【推奨環境】

このレポート上に書かれているURLはクリックできます。できない場合は最新のAdobeReader をダウンロードしてください。(無料)

<http://get.adobe.com/jp/reader/>

【著作権について】

このレポートは著作権法で保護されている著作物です。

下記の点にご注意戴きご利用下さい。

このレポートの著作権は株式会社Adventure Lifeに属します。

著作権者の許可なく、このレポートの全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等することを禁じます。

このレポートの開封をもって下記の事項に同意したものとみなします。

このレポートは秘匿性が高いものであるため、著作権者の許可なく、この商材の全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等することを禁じます。

著作権等違反の行為を行った時、その他不法行為に該当する行為を行った時は、関係法規に基づき損害賠償請求を行う等、民事・刑事を問わず法的手段による解決を行う場合があります。

このレポートに書かれた情報は、作成時点での著者の見解等です。著者は事前許可を得ずに誤りの訂正、情報の最新化、見解の変更等を行う権利を有します。

このレポートの作成には万全を期しておりますが、万一誤り、不正確な情報等がありましても、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わないことをご了承願います。

このレポートを利用することにより生じたいかなる結果につきましても、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わないことをご了承願います。

3章. 笑顔が増える子育て

1. 頑張ろうとしなくて大丈夫
2. 時には“しない”ことも大切
3. “いいお母さん”は人それぞれ違う
4. 子どもらしさを大切にする
5. 環境に頼るだけでこんなにも楽になる

3章. 笑顔が増える子育て

1. 頑張ろうとしなくて大丈夫

子どもに対し、“こうあるべき”

“こうなってほしい”という思いを持っている大人は多いと思います。

その結果、子どもに“これもしてあげなきゃ”

“あれもしてあげなきゃ”と、何でもかんでも

大人がやってあげようとしてしまっていないか？



そうすると、

「絵本読んであげようと思っていたのに読めなかった。」

「一緒に遊んであげようと思っていたのにできなかった・・・」

「これを教えてあげようと思っていたのに・・・」などと、

できなかったことばかり責めてしまい、

お母さんも疲れてしまいます。

自分のできることのキャパ以上のことを自分に求めすぎて

それがうまく消化できなくなって、

それが“つらい”に変わってしまうのです。

これもあれもというのはきりがありませんよね。

全てを完璧にできる人間なんていないのです。

自分のできる範囲でしてあげるだけで十分です。

それを無理して、頑張るまでやる必要はないのです。

頑張りすぎなくても、お母さんが持っている

子どもに対する気持ちや想いというのは

ちゃんと子どもには伝わっていますよ！

2. 時には“しない”ことも大切

遊び方でも、丁寧に 1 から 10 まで教えてあげる

大人たちもいますが、子どもというのは、自分たちで

考えながら行い、その中でたくさんのことを発見し、学んでいます。



これはどのように使うのか、どうやったら楽しく遊べるか、

また「このように使ったらどうなるか？」

「これとこれを使ったら〇〇ができる」などと

その使い方や遊び方まで全て自分で考えだします。

それは正しい使い方であってもそうでなくても・・・。

これは大人にはない、**子どもたちの素晴らしい素質**です。

しかし大人というのはつい正しく使わせて、

正しく遊ばせなければと思ってしまい、

1 から 10 まできちんと教えてあげようとしてしまいがちですが、

正しい使い方・遊び方ってそんなに大切でしょうか？

大人になれば、教えなくても自然と正しい使い方が

わかるようになります。

それよりも幼児期や子どもの頃というのは、

自由な発想力や想像力を培うことの方がはるかに大切です。

しかしその自由な発想力や想像力というのも、

大人が全てこれはこう！と教えてしまったら子どもたちは

型にはまった考え方しかできなくなってしまうです。

そもそも大人というのは本来の使い方・遊び方を
知ってしまっているから、型にはまった
考え方しかできなくなってしまうのです。

しかし、子どもは本来の使い方や遊び方を
教えてもらわない限り知りません。
なので、自分で考え出すしかないのです。



ということは、大人が1から10まで全て
教えてあげるということは、子どもたちの
生まれ持った能力や可能性までもダメにしてしまう
ということに繋がってしまうというわけです。

正しい使い方・遊び方などに

とらわれる必要なんてありませんし、

子どもなりの発想力、想像力を楽しんで見守って

あげることが、何より大切です。

こういう部分を大切にしていけば、考え方が柔軟になったり、

おもしろい発想・変わった発想をどんどんと

生み出してくれるようにもなりますよ。

そして、お母さんが子どもに対して

“してあげる”ということをやめてみると、

驚くべき子どもの力を感じられると思いますし、

“こんなに必死に頑張らなくてよかったんだ・・・”

“何もかもしてあげようと思わなくてもよかったんだ・・・”

と思えると思います。

そして、今までにないくらい楽で楽しい子育てが待っていますよ！

3. “いいお母さん”は人それぞれ違う

お母さんたちの中には、“良いお母さんになりたい”

“良いお母さんにならなきゃ”と思っている方は

とても多いです。

では、良いお母さんって一体どんなお母さんなののでしょうか？

どういう子育てをしていて、誰から認められたら

いいお母さんなののでしょうか？

私は、それに答えもなければ正解もないと思っています。



いろいろなお父さん・お母さんがいるから

いろいろな子どもたちがいる。いろいろな家庭がある。

それって素敵なことだと思います。

いいお母さんになろうとすればするほど、
自分のできない部分、また自分の思っている
いいお母さん像から離れている部分ばかりに
目がいつてしまい、“自分はやっぱりダメなんだ・・・”と、
自分のことを認められなかったり、自信が
なくなってしまい、お母さんも疲れてしまいます。

でもそのいいお母さん像から一度離れてみてください。

そうすればいろいろなお母さんがいていいんだと
思えるようになって、気持ちもずいぶん楽になります。

そして、“いいお母さん像”というのは、

その人によって異なります。

ある人は、このようなお母さんがいいお母さん
だと思っていたけれど、人によっては真逆の
お母さん像の方がいいという人もいますので、
“良いお母さん”というのは、自分の思い込みでしかないのです。

すぐ怒っちゃうお母さん。

毎日子どもと遊んであげるお母さん。

すぐに子どもに言われたことを忘れちゃうお母さん。

お仕事ばかりのお母さん・・・

いろいろなお母さんたちがいますが、

どんなお母さんであってもいいと私は思います。



だって、どんなお母さんでも子どもにとったら

たった1人の大好きなお母さんなんですから。

人間だからもちろん誰でもいい部分もあれば、

良くない部分もあると思います。

でもそれを含めて自分自身なんです。

みんながみんなマイナスの部分がなくて

良い部分しかなかったら、その人らしさもなくなって

1人1人の違いもなくなってしまっ

つまらない世の中になってしまいますよね！

なので、“いいお母さんになる”ということに

それほど執着しなくても大丈夫ですよ。

その自分自身の良い部分も悪い部分ももっと大切に

してあげることができたら、きっと**本当の意味で**

いいお母さんになれると思いますよ (*^_^*)

そして自分自身を愛せるようになって

大切にされてあげられるようになれば、

子どものことももっと大切にできるようになりますよ！

4. 子どもらしさを大切にする

大人というのは、自分の望むような子どもに育ってくれたら、

自分の育て方が良かった。

望むような子どもに育たなかったときには、

自分の育て方がよくなかったなど・・・



どれだけ子どもが自分の期待通りに

育ってくれたかということで、自分自身を

評価してしまったりしている大人たちも多いです。

また、周りの目や評価を気にしすぎている

お母さんたちもたくさんいます。

確かに、周りの人たちに、「おりこうさんだね」

と言われればもちろん嬉しいですし、

「落ち着きないわねえ」と言われれば傷つきますし

落ち込みますよね……。それは誰でも同じです。

でも果たして、周りからの良い評価を得たいがために、

いい子にするのでしょうか？

そもそも“いい子”ってどんな子なのでしょう？

わがままだからダメ？

落ち着きがない子が悪い子？

泣き虫だからお利口さんじゃない？

なんだか、世間というのは、静かで落ち着いていて

言うことを聞いている子がお利口さんと

評価してしまいがちですが、私は、

泣いてわがママを言って元気いっぱい
に育つ子どもの方が
うんと子どもらしくて好きです。

(もちろん他人に迷惑をかけるようなことは良くありませんので
きちんと注意をしていくことが大切ですが・・・)

私は、自分の評価、他人からの評価を気にするよりも、

子どもが子どもらしく、その子の個性を大切にしながら

育っていくということが何より大切だと思います。



それが**本当の意味で正しい子育て**だと思います。

自分の評価、他人からの目を気にする必要は全くありません。

子どもの良い部分もそうでない部分も、

子どもの個性として捉え、のびのびと子どもらしく、

成長させてあげてくださいね！

5. 環境に頼るだけでこんなにも楽になる

大人というのは、“子どもが喜んでくれる”

“笑ってくれる”ということが

“楽しんでくれていること”だと思っています。

そして子どもの反応が薄いと、大人は

どうにかして子どもを笑わそうとしたり、

子どもがどのようにしたら喜んでくれるのか、

楽しんでくれるのかということを考えてしまいますよね。

でも、一度外に出てみてください。

少し歩くだけで、風を感じたり、歩いている人たちに出会ったり…

公園に行けばいろいろな木や葉っぱ、花に出会ったり、、、

こんな大人にとったら当たり前のようなことであっても、

外に出るだけでこんなに子どもの五感を刺激してくれる

環境が広がっているのです。

また、水族館や動物園などに行くのもとってもおすすめです。

いつも子どもに絵本を読む、いないいないばあをする、

かくれんぼをする、、、確かに子どもは喜びます。



ただ、あまりにも子どもを喜ばすことに

一生懸命になりすぎてしまうと、

お父さんやお母さんが疲れてしまいますし、

子どもが反応してくれないときは

“子どもの楽しんでくれることって何だろう？”

“どのように遊んだら良いのかわからない”

となってしまうのです。

私は、大人が無理をしてまですることだとは思いません。

自然や周りの環境に目を向けてみるだけで

子どもの五感を刺激しながら楽しめるものが

たくさんあるので、**いつもこちらが何かを提供して**

楽しませなきゃ！と思わなくても大丈夫。

たまには環境に頼ってみてください。

そうするだけで、うんと楽になって、

子どものいろいろな五感を刺激してくれる

世界に出会うことができますよ！